

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272100502		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム津田沼		
所在地	千葉県習志野市藤崎4-10-8		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街の中にあり、近隣には小学校や幼稚園、そして公園も多く、緑豊かな季節を感じられる環境にある。また、事業所の1階の入り口や庭には花壇があり、コロナ前は季節ごとの花をご利用者と買い物に行き購入し、それを一緒に植えている。そして、町内会の行事には、なるべく参加をさせていただき、地域とのふれあひも大切にしている。コロナ前までのような生活には戻らないが職員は常に、事業所の理念でもある、「お元気で 明るく楽しく 心豊かに 過ごしましょう」を基本に、ご利用者の笑顔を絶やさないで過ごしていただけるようにいろいろ工夫している。又、日常生活ではご自身で出来る事を見出し、継続して実行できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お元気で、明るく楽しく、心豊かに、過ごしましょう」の理念の実践に向けて支援しており、近隣住民との交流も大切にしている。地域の行事には積極的に利用者と参加しており、中学生の福祉体験も受け入れ、中学生との交流もある。事業所は認知症の相談も受けるなど地域貢献にも努めている。ホームは、利用者が最後までホームで住み続けられるように、また、自立支援を念頭に、できることを継続し笑顔で過ごせるようにな支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お元気で明るく楽しく心豊かに過ごしましょ」の理念に基づき入居者の方々が穏やかに健康が保て、楽しく生活が送れるように、職員全員で支援している。	管理者は、朝礼時に理念を意識したケアを実践するようにと職員に話しており、地域とつながり、心豊かに暮らし続けることが出来るようにという思いで支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	閑静な住宅街でもあり、散歩等で近隣の方と会った際は気持ちのいい挨拶を心掛けている。	地域の行事には積極的に利用者と参加している。自治会の回覧板で地域の行事を確認し、会合にも参加している。また、中学生の福祉体験も受け入れ、中学生との交流もある。事業所は認知症の相談も受けるなど地域貢献にも努めている。	認知症についての専門性を活かした、さらなる地域貢献や住民との交流が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員の方や町会長にも参加して頂き、ホーム内のお話しをしながら認知症の方の理解を得られるようコンタクトをとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、行事開催報告や現状報告をしている。議題テーマについて意見交換をしながらサービス向上に努めている。今現在はコロナ禍の為、運営推進会議は控えている。	地域住民、地域包括支援センター、家族などの参加で年6回開催している。コロナ禍のため、現在は書面や電話でやりとりし、内容を記録している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来訪を通してアドバイスを頂き、サービスの向上に努めている。また介護サービス連絡会に参加しながら他事業者との情報共有に努めている。	市が主催する年2回の介護サービス連絡会に参加し、事業所の情報交換をおこなっている。また、市の相談員の来訪を受け入れているが、現在はコロナ禍の為、相談員の来訪は中止している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では西玄関を出るとバス通りなので、安全を配慮して施錠しているが常時職員が鍵を所持しており、いつでも解除できるように対応している。	身体拘束等適正化のための指針が作成されており、職員研修もおこなわれている。安全確保のため階段入口は施錠しているが、利用者の希望に応じて解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は高齢者虐待防止法について考え外部研修や内部研修を通して虐待の防止についての理解を全職員に学ぶ機会を設けている。今現在はコロナ禍の為、外部研修は控えている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に資料配布や外部研修や内部研修に於いて学ぶ機会を設け、現場でも勉強会等を設け理解が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、ご利用者や家族へ納得して頂けるまで説明して、不安、疑問点には何度も説明して安心して、ご入居出来るように丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を開催して、事業所への要望・意見を伺う機会を設けている。家族会での会議録を推進会議で報告して外部に情報が表せるようにしている。今現在コロナ過の為、開催は控えている。	家族会が設置されており、年2回開催している。家族会の会議録を作成しており、運営推進会議でも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、夕方の申し送り、ミーティングで職員から小さな疑問や随時の意見交換にも発言できる環境機会を設けている。	日常的に、申し送り、ミーティングなどでも意見交換をおこなっており、管理者は全員が自由に意見を言える環境をつくるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員がやりがいや向上心を持って働けるように努めている。職員の努力や実績、勤務状況を把握するように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	頻繁に法人全体で研修の機会を設けている。新人職員はスキルを段階的に上げていけるようにマニュアルを作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上委員会への参加を通して他事業所との意見交換や情報交換を行い、取り入れたいとケア方法等を見直しサービスの向上を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまで、本人の意向や不安要因等に十分に配慮を行い、要望等を確かめながら安心して過ごせる為の関係作りを心掛けコミュニケーションを多めにする環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等(面会に来られない)にてホーム内での様子を説明しながら、ご家族等が困っている事や要望等を聞き家族との良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は不安な状態なので、本人・家族の意向を十分に受け止め、本人が安心して施設サービスが受けられる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく、過ごせるように職員は利用者と一緒に楽しく過ごせるように時間を多く持つ様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を毎月便りや、面会時に説明して施設での生活状況を把握して頂き、職員では成せない事を家族に協力を得て、本人、家族が絆を深められる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居心地の良い環境作りに努めている。定期的な行事として外食や買い物など馴染みの店や近隣に行けるように努めている。また知人や家族などの訪問の時間制限は設けていない。今現在コロナ過の為、外出は控えている。	家族や知人の来訪については基本的に自由だが、コロナ禍の今、時間を決めて面会できるようにしている。これまでは、馴染みの商店での買い物や外食などもおこなってきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、孤立しないよう関わり合いをして支え合うよう、席などを調整している。また利用者が他の方に声をかけて、交流を深めていけるよう努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談に随時行っている。必要に応じて面会も行い、本人・家族の身心的なフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を家族から聞いたり、日々の関わり方の声かけや傾聴をして把握に努めている。	職員間で協力して、一人ひとりに寄り添う時間を作っている。そばに座る、一緒に歩く、新聞を読む、外に出かけるといったように、共にすごして思いを探るようにしている。そのことを申し送りや記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との面会時やご本人とはコミュニケーションの中から馴染みの暮らし方や生活環境等を探り、今のホームでの生活のヒントとして活かせる様に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で声掛けや見守りを行いながら一人ひとりの現状を把握できるように努めている。自立支援を心掛け残存機能の活かせるように支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良いサービスが提供される様に担当者会議やミーティングの中で議題について検討し、職員全体で経過を観察しモニタリングにて現状把握に努めて計画を作成している。	意見を出しやすいように、申し送りや朝礼の時間を大切にしている。計画作成担当者は他職員の意見も計画に反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者身心状況や日常の様子等を介護記録に記入し情報を共有しながらケアを行い見直しやモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状況を把握して本人や家族の状況、その都度生まれるニーズにできる限り対応できるように、職員一同柔軟な支援やサービスに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習志野市の広報等で地域資源の情報を得て、ご利用者が参加でき、楽しむことができる会合等を検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、受診が必要な場合には速やかに対応できるように、普段から連携をとっている。	近隣の2医院に往診してもらっている。また、歯科や眼科の往診もある。利用者や家族の意向で、以前からのかかりつけ医に受診する人もいるなど、臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックや観察で利用者の身体状況を把握し異変を感じたら訪問看護師へ報告、指示を受け対応している。主治医や家族に報告し適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となってもすぐに医療機関に情報提供をできるようにしている。また、入院後も早期に退院できるように医療連携室との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にはご家族に終末期のついてを説明している。又、身体状況の変化の都度、医師の助言を得ながらご家族と話し合い、それを職員全員で共有している。	入居時に利用者の意向を本人や家族に確認している。家族などの思いは医師の意見を踏まえ、何度でも確認するようにしている。家族の揺れ動く気持ちに丁寧寄り添い、方針変更にも対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変・事故時に備えて訪問看護事業所と連携できるよう情報共有している。応急処置や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、入居者も一緒に参加している。又、夜間帯を想定した訓練も同時に行っている。	避難訓練では職員をモデルに避難方法の検討をしている。近隣の人も町会や運営推進会議の場で話し合いをしている。各居室には、避難時に分かりやすい目印をつけて緊急時に備えている。	職員の入れ替わりがあったので、例えばスプリンクラーの止め方などについて、再度周知することが望まれる。備蓄品の入れ替え、近隣住民との災害時の役割分担などは定期的な見直しを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を大切に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう職員は話し合い、ケアに取り組んでる。	人生の先輩として尊敬の念を持つことや言葉遣いについて入職時に伝えるとともに、日頃の朝礼や会議でも伝えている。また職員間で気になることはすぐに言い合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望がいつでも自己表現出来るように、日常的な生活の中で常に職員は傾聴が出来る環境に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせ可能な限り対応を行っているが全ての入居者の希望に添って過ごす事は難しい。訴えの中で可能な限り、業務優先ではなく希望を取り入れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容についてはご自身で用意出来る方は洋服を選んで頂き、困難な方には話しを聞いて『よく似合ってますよ』と声がけしながら本人の意識を促し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る事を一緒に行っており毎日の食事見た目にも楽しめるように配慮を行い、盛り付け等にも工夫している。家事参加として食器拭きや片付けをされている。	おやつ作り、後片付けなど利用者にして出来ることをしてもらったり、盛り付けの工夫で季節感を出したりして食事を楽しめるようにしている。車を出して外食に行くこともある。また、今後も長く経口摂取できるよう、訪問歯科に入ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は一人一人の食事形態や、食事摂取量を把握して、記録し常に必要な栄養が摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、入居者全員の口腔ケアの徹底して行っており、常に清潔が保たれるように支援している。拒否される方には時間をずらし対応するなど努めている。口腔内の問題点がある時は訪問歯科への往診も行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ誘導やパッド交換を行っている。トイレでは自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立は個人の尊厳につながると思いを大切にしている。排泄チェック表に記録して声掛けのタイミングを変える、手すりに分かりやすい印をつけるなどの工夫をするとともに、利用者が座位の保持ができるように支援して、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、排便(-)の把握をして、食事や水分、服薬にて調整し、歩く程度の運動を行い定期的に排便出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や要望を聞き入浴を行い、安全に気持ち良く入浴出来るように支援している。拒否のある方には足浴、手浴、清拭など臨機応変に対応し工夫している。	週2回の入浴日があるが、入りたくない場合は翌日に入ってもらい、手浴、足浴、清拭をするなど臨機応変に対応している。家庭的な浴室で、同性介助を基本とし、プライバシーにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、適切な生活のリズムが整うように日中の活動支援を行いながら、夜間気持ち良く睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理表により、薬の内容は把握されている。チェック表を用いて誤薬防止に努めている。薬変更時は申し送りノートにて連絡し確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や好きな事、得意な事、興味がある事を把握に努め、洗濯物たたみ、家事手伝い等役割を担って頂き、職員も感謝の気持ちを忘れずに共同生活の楽しみを共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来る限り散歩や外出レクへ出かけるように努めているが、常に本人の外出希望に沿う事は出来ないこともある。今現在コロナ過の為、外出は控えている。	コロナ禍の中でもできることとして、近所への散歩は欠かしていない。近所のスーパーへ買い物に出かけることもある。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を預かっているご利用者の方には、買い物時本人の財布を渡して、ご自身で金銭受取が出来るように見守りの中で買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方と手紙や電話のやり取りができるようにしている。また職員が窓口となり電話がかけられるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけにより四季を一人一人が感じられ居心地の良い空間であるように努めている。又安全面での配慮も行い環境整備にも努めている。寒気の時期は床暖房で温度調整に努めている。	リビングは利用者と職員と一緒に季節の飾り付けをしている。2つのユニットが廊下でつながって行き来できるようになっており、利用者は思い思いの場所で過ごしたり、合同でレクリエーションをすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間で仲の良い入居者同士でお話したり、一人でのんびり過ごしたり、休息の場所にしたり、その方のスタンスを大切に、居心地良い空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家で使っていた物を持ち込んで頂いている。写真や飾りつけ等はご家族と職員で行い、居心地良く過ごせるように工夫している。	清掃専門の職員を配置して、清潔を保っている。本人の希望、家族の意向を取り入れながら、環境を整えて、居心地のよい居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事や分かる事の能力を把握し、本人の出来る事をして頂いている。自立支援を心掛け、安全に出来るような環境作りを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと